

昔の暮らしを今に伝える古民家

所在地: 都市農業公園 足立区鹿浜 2-44

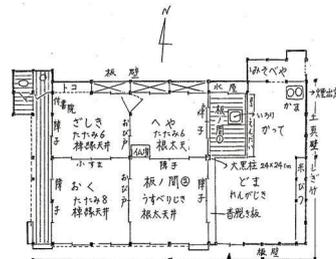


旧和井田家住宅(母屋)

旧和井田家住宅は、安永^{あんえい}2・3年(1772・1773)頃に生まれた4代目当主の時に建てられたと伝わり、安政^{あんせい}2年(1855)の大地震や大正12年(1923)の関東大震災などにも耐え、現在にその姿を伝えています。

旧和井田家住宅は、明治以降も改修・改築が加えられていますが、江戸時代の関東地方の古民家の典型的な間取りである「田」の字型の間取りを今も残しています。

23区に現存する江戸時代の古民家は数が少なく、また旧和井田家住宅が江戸時代の姿をよく残していることから、江戸時代の足立区の農家の暮らしぶりを知る上で、大変重要な文化財であるといえます。そのため、特に重要な文化財として指定文化財となっています。



和井田家住宅の間取り

文化財豆知識 おしゃれな「かまど」？ 花畑と煉瓦

旧和井田家住宅のどまや軒先には大正時代に作られた煉瓦が敷き詰められ、煉瓦製の「かまど」もあります。花畑は煉瓦造りが盛んな土地で、大正2年創業の帝国煉瓦(現花畑6丁目)という工場が昭和十年代まであり、和井田家の当主が役員をしていました。旧和井田家住宅に残る煉瓦は、足立の近代産業の様子を今に伝えています。また、明治以降、煉瓦は、文明開化の象徴でした。この「かまど」もさぞおしゃれに見えたことでしょう。



煉瓦製の「かまど」